

## 霞ヶ浦環境科学センターの概要

## 1 沿革

年 度	項 目
平成 7年10月	「第6回世界湖沼会議 - 霞ヶ浦 '95」を本県で開催し、橋本知事がセンター設立を提唱
平成8年度	霞ヶ浦環境センター（仮称）基本構想策定委員会を設置し、センターの4つの機能など基本構想を策定
平成9年度	霞ヶ浦環境センター（仮称）位置選定研究会を設置
平成10年 5月	建設地を決定（10箇所の候補地から現在地が選定された。）
平成11年 1月	霞ヶ浦環境センター（仮称）基本計画検討懇談会を設置し、基本計画を策定
5月	霞ヶ浦環境センター（仮称）基本計画を公表
9月	市民団体等との意見交換会を開催
平成12年度	霞ヶ浦環境センター（仮称）関連湖岸等整備計画検討委員会を設置し、委員会報告書を策定
平成14年 3月	霞ヶ浦環境センター（仮称）建築基本設計を策定
7月	建設予定地内の埋蔵文化財発掘調査を開始（調査期間 平成14年7月～平成15年3月）
9月	土地収用法に基づく事業認定を取得
12月	用地取得
平成15年 3月	霞ヶ浦環境センター（仮称）建築実施設計を策定
9月	本体建物建築工事着工 調査研究課題等検討委員会を設置
平成16年 7月	霞ヶ浦環境センター（仮称）調査研究計画を策定
12月	本体建物建築工事完成、引渡し
平成17年 3月	展示物設置及びセンター情報ネットワークシステムが完成 「茨城県霞ヶ浦環境科学センターの設置及び管理に関する条例」を公布
4月	茨城県霞ヶ浦環境科学センターを設置（4月22日オープン）
6月	天皇皇后両陛下御視察
10月	高円宮妃殿下御視察 センター入館者5万人達成

## 2 施設の概要

## (1) 建物概要

霞ヶ浦環境科学センターは、霞ヶ浦湖畔から約800 離れた土浦市とかすみがうら市にまたがる高台に位置し、霞ヶ浦が一望できるように建設されている。

本体建物は、玄関を入ると吹き抜けのエントランスホールがあり、建物の西側が展示交流ゾーン、東側が研究ゾーンとなっている。

展示交流ゾーンには、1階に水環境学習の核となる展示室（入場無料）及び研修室を配置し、2階には市民団体などが水質浄化や環境保全のネットワークを広げるためのスペースとして交流サロ

ンを設けるとともに、来館者がいつでも環境保全や霞ヶ浦について学習できるよう文献資料室を整備した。

一方、研究ゾーンには、各種実験室や分析室、さらに研究事務室などを配置するとともに、1、2階の通路からは研究室の様子が見学できるよう来館者に配慮した設計となっている。

(2) 屋外施設

建物南側は、地形の高低差を利用して整備した池・小川が水の流れを作り出しており、自然環境学習の場としても利用できるようになっている。また、森の広場周辺には、既存樹木を生かした広場、散策路、霞ヶ浦が見渡せる展望デッキなどがあり、訪れた人々の憩いの場所ともなっている。

さらに、建物の北側には、イベントなど多目的に利用可能なエントランス広場や駐車場(約130台駐車可)があり、建物東側には、倉庫、屋外トイレ、車庫等などがある。

(3) 環境への配慮

本体建物の地中杭には残土を排出しない鋼管回転杭を採用するとともに、太陽光発電(10kw)、地熱利用のアースチューブ、人工木による日除けルーバーなどを設置して、自然エネルギーの有効活用を図っている。

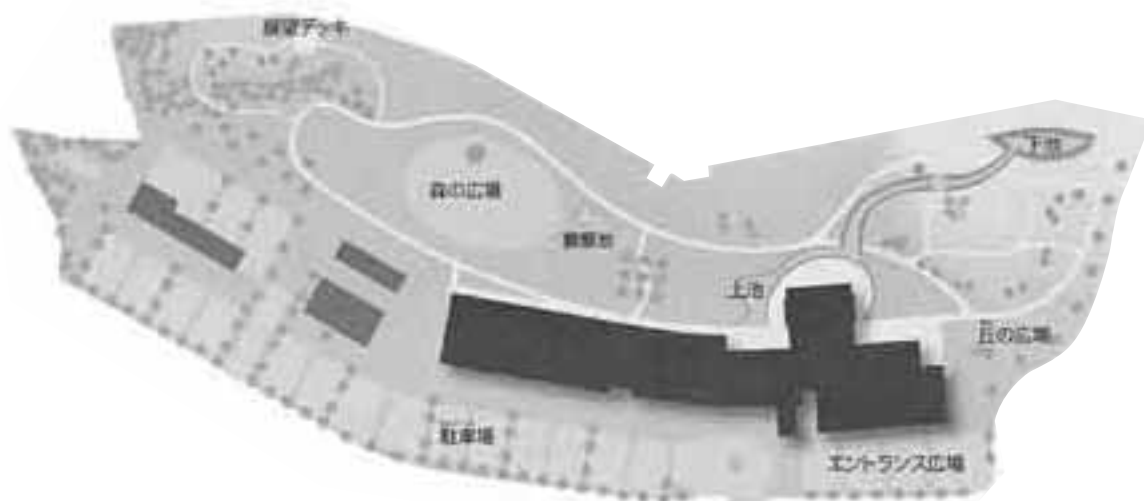
施設規模

- ・敷地面積 約33,000㎡
- ・建物延床面積 約5,000㎡(鉄筋コンクリート造2階建)

主な施設の概要

位置	施設名	概ねの面積(㎡)	主な用途など
1階	展示室	650	水環境学習の中核施設 テーマ「湖沼とともに生きる」 入場無料
	小展示室	150	市民活動等の発表スペース
	多目的ホール	320	最大200人収容 映像及び音響施設を整備
	研修室	110	簡易な水質分析、顕微鏡観察などの体験型環境学習を実施
2階	交流サロン	530	ミーティングコーナー、印刷機及び情報端末を設置
	会議室A・B	40・40	20人規模の会議室(無料)
	文献資料室	130	霞ヶ浦や環境に関する書籍・文献等の閲覧及び貸出

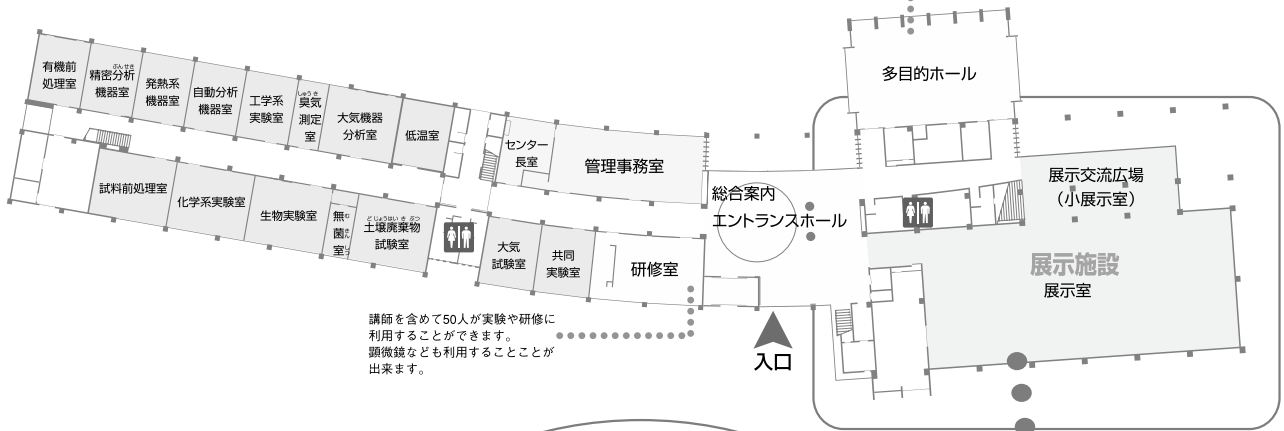
センター全体図



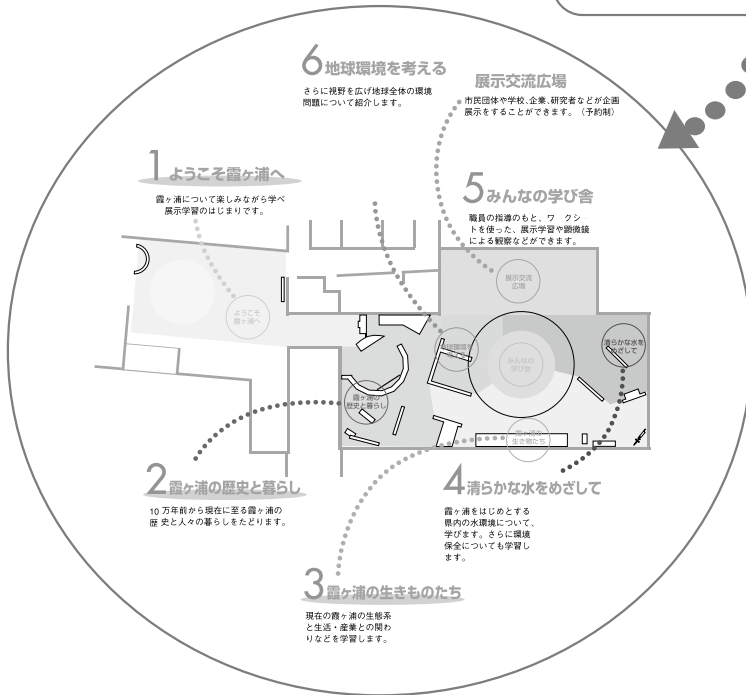
センター平面図

1F

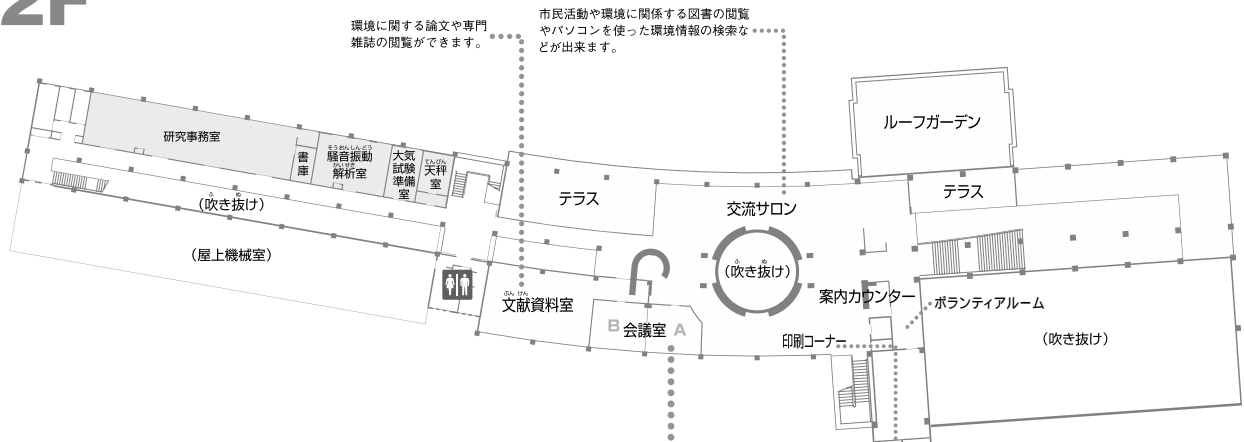
学校形式で200名利用できます。また2分割して利用することもできます。



講師を含めて50人が実験や研修に利用することができます。顕微鏡なども利用することが出来ます。



2F



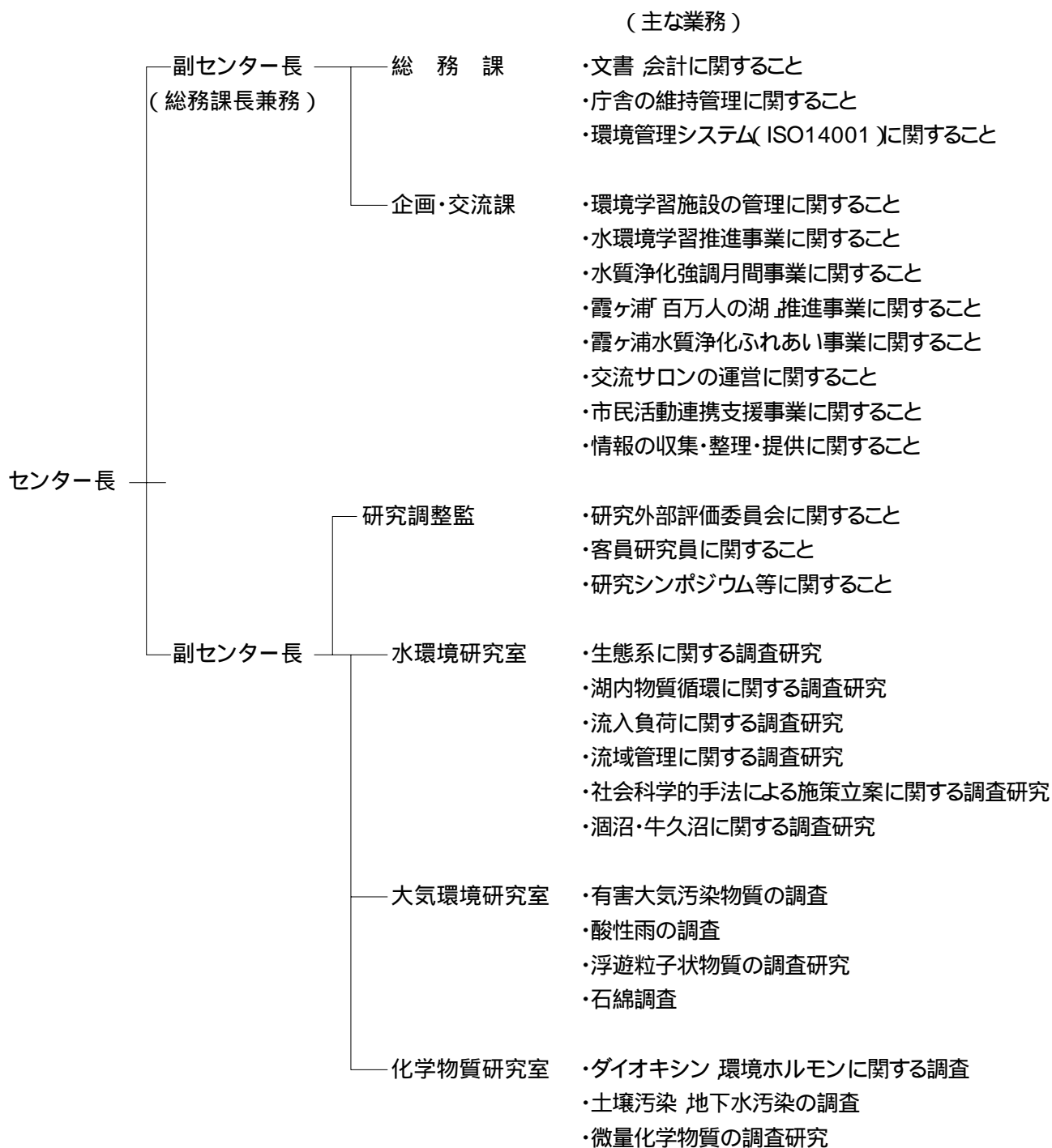
環境に関する論文や専門雑誌の閲覧ができます。

市民活動や環境に関する図書の閲覧やパソコンを使った環境情報の検索などが出来ます。

20人が利用できる会議室が2つあります。

センターに登録した市民団体は紙折機、メルボックスやコピー機が利用できます

### 3 組織



### 4 職員数

(平成17年7月現在)

職名	非常勤 特別職	職員		非常勤嘱託員					臨時 職員	合計	
		事務職	研究職	流動研 究員	環境学 習指導 員	水質浄 化活動 相談員	司書	水質分 析補助 員			運転手
センター 長	1	12	20	1	2	1	1	2	1	7	48
人数	1	12	20	1	2	1	1	2	1	7	48

## 5 予 算

(平成17年度当初予算)

項 目	予算額(千円)
1 霞ヶ浦環境科学センター費	317,900
(1) 運営費(職員給与費を除く。)	192,912
(2) 水環境調査研究事業費	103,547
(3) 市民活動連携支援事業費	14,741
(4) 水環境学習推進事業費	1,200
(5) 情報収集発信事業費	5,500
2 「百万人の湖」浄化啓発費	54,801
(1) 霞ヶ浦環境学習等推進事業費	9,415
(2) 水質浄化強調月間事業費	5,236
(3) 霞ヶ浦水質浄化ふれあい事業費	6,887
(4) 霞ヶ浦「百万人の湖」推進事業費	27,603
(5) ミリオンズレイク調査研究事業費	5,660
3 調査研究費(令達予算)	41,034
(1) 特殊公害対策費	1,484
(2) 大気保全対策費	33,363
(3) 水質保全対策費(霞ヶ浦対策を含む。)	3,711
(4) 廃棄物対策費	1,566
(5) 公害防止対策費	180
(6) 規制対策費(霞ヶ浦水質規制対策を含む。)	730
4 環境保全対策費(令達予算)	1,503
計	415,238

## 6 環境管理システム(ISO14001)の推進

公害技術センターにおいて平成13年9月にISO14001の認証を取得したが、平成17年度の県の組織改正に伴い、ISO14001の登録組織を霞ヶ浦環境科学センターに登録変更し、環境負荷の削減を図るため、センター職員が一丸となって環境改善活動を展開した。

## (1) 認証取得の概要

- ア 取得年月日 : 平成13年9月20日
- イ 審査登録機関 : 日本検査キューエイ株式会社
- ウ 対象事業所 : 茨城県霞ヶ浦環境科学センター
- エ 登録範囲 : 霞ヶ浦をはじめとする県内の湖沼、河川の水環境や大気環境などの保全に取り組むための調査研究、環境学習・市民活動連携支援などに係わる事業活動

## (2) 認証取得後の主な経緯

- ア 平成14年8月22日 第1回定期審査
- イ 平成15年8月22日 第2回定期審査
- ウ 平成16年8月30日 第1回更新審査
- エ 平成17年9月22日 第3回定期審査兼変更審査兼2004年版移行審査

### (3) 活動状況

#### ア マネジメントレビュー

登録事項の変更等に伴い全規程、環境方針、環境管理プログラム等の見直しを行った。

#### イ 研修の実施

##### (ア) 一般研修、特定業務従事者研修、緊急事態対応研修

実施日：平成17年7月6日、12日

受講者：一般研修 29名、特定業務従事者研修 14名、緊急事態対応研修 45名

##### (イ) 内部環境監査員研修

実施日：平成18年3月8日、9日

受講者：9名

#### ウ 環境影響評価

環境影響調査を行い、環境影響評価により著しい環境への負荷側面の特定を行った。

#### エ 内部環境監査

内部環境監査を実施し、その結果に基づき是正措置を行った。

#### オ 定期審査兼変更審査兼2004年版移行審査

実施日：平成17年9月22日

認証取得から第3回目の定期審査、登録内容変更に伴う変更審査、ISO14001 2004年版移行審査を受審し、環境管理システムが適正に運用されていることが認められ、平成17年10月13日に登録証が発行された。

### (4) 認証取得の効果

#### ア 職員の意識改革

自己の職務に伴う環境への影響を自覚し、その改善を進める意識が強化された。

#### イ 環境負荷の低減

(ア) 水環境や大気環境などの保全をめざした調査研究、環境学習、市民活動連携支援活動に取り組む職員の自覚がさらに強化され、多くの課題が積極的に行われた。

(イ) 用紙類の使用量の削減、薬品の適正管理、産業廃棄物処分量の減量化などが積極的に行われた。

## 7 表彰

平成17年度中に当センター職員が受けた表彰は、次のとおりである。

表彰：日本下水道協会誌優秀論文賞(有功賞)

表彰者：社団法人日本下水道協会

受賞者：水環境研究室主任研究員 桑名 美恵子

論文名：「担体投入型修正Bardenpho法による下水高度処理システムの実用化研究」

共同執筆者：江橋 正・三好 隆・高橋光義・津倉 洋・高橋幸治

表彰日：平成17年6月30日

## 環 境 方 針

### 1 基本理念

茨城県霞ヶ浦環境科学センターは、霞ヶ浦をはじめとする県内の湖沼、河川の水環境や大気環境などの保全に取り組むため、環境全般に関わる調査研究や環境学習・市民活動連携支援などを実施し、地域環境及び地球環境の保全に寄与するとともに、自らも環境に影響を与えうる機関であることを認識して、全職員の参画により組織が一丸となって環境改善活動を実行します。

### 2 基本方針

- (1) 当センターの事業活動に係る環境影響を的確に把握し、環境管理システムを構築及び運用し、その継続的な改善を図るとともに、環境汚染の未然防止に取り組みます。
- (2) 適用される環境関連の法規制及び当センターが受け入れを決めた要求事項を遵守します。
- (3) 環境目的及び目標を設定し、必要に応じて見直しを行います。
- (4) 特に次の点については優先的に取り組みます。
  - ① 研究業務について、環境保全をめざした課題に積極的に取り組むこと。
  - ② 子供から大人まで親しみやすく参加しやすい体験型学習の機会や場を提供すること。
  - ③ 県民や市民団体などに対し、活動の場を提供するとともに、環境問題の解決に有益な研究成果や情報を提供すること。
  - ④ 電力などのエネルギーの適正使用及び用紙など資源消費量の削減を推進すること。
  - ⑤ 化学物質の適正管理を徹底すること。
  - ⑥ グリーン購入（環境負荷の少ない製品の購入）を推進すること。
  - ⑦ リサイクル・リユースの推進により廃棄物の削減に努めるとともに、廃棄物の適正処理を徹底すること。
- (5) この環境方針は、全職員に周知徹底し、全職員参加のもと環境保全活動に取り組みます。
- (6) この環境方針は、広く一般に公表します。

平成17年5月12日

茨城県霞ヶ浦環境科学センター長

前 田 修